



いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ あ・そ・ぼ

2024年6月22日(土)～10月6日(日)

主催：ちひろ美術館 協力：株式会社ジャクエツ、大木洋平(OKIFURNITURE & DESIGN) 助成：公益財団法人乃村文化財団

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区



グラフィックデザイン：岡崎智弘

あそびをテーマにした本展では、企画協力の森口佑介氏の解説を軸に、ちひろの絵を発達心理学の視点から読み解くとともに、子どもたちがあそびながら鑑賞できる場をつくり出します。

\*前編は安曇野ちひろ美術館・美術館日よりNo.113に掲載しています。

### 心の色

いわさきちひろは「なんでもあそびにする」子どもの姿を的確にとらえ、描きました。一方で色使いに注目すると、背景の色が絵のなかの人物の心や状況を反映していると思われる作品があります。例えば、「まきばの うし」(図1)では、牛と子どもたちは牧場にいるため、背景は緑か茶色が自然に思われます。しかし、ちひろは背景に鮮やかな赤を選びました。森口氏は、「心理学の研究によると、赤い色は、『回避』を意味します。子どもたちの、接近したいけど、回避してしまう心情を表現しているように考えられます」と語ります。この絵には、「こわくないよ ほっとけよ こっちみてる きちゃだめだよ だけど やさしい めよ」とちひろによる詩が付けられています。「赤いと思えば赤く塗るし、紫だと思えば紫をつけた。空を黄色くすることもあれば、水を桃色に描いたりもする」と語ったちひろは、揺れ動く子どもの心の動きをとらえ、直感的に赤い色彩と水彩のにじみであらわしたのでしょう。画家として、母としての視点に加え、子どもの心を持ち続けて描いていたちひろならではの表現です。

### 《絵を見るための遊具》

展示室には、こうしたちひろの絵をあそびながら鑑賞することができるplaplaxの新作《絵を見るための遊具》が点在します。「おとなのしてん/こどものしてん」(図2)には、のぞき穴が上下にひとつずつあります。のぞくと大人と子どもの視点が入れ替わって……？ そのほかにも、絵の一部が拡大されて見える遊具や、さまざまな仕掛けのあるレンズを通してちひろの絵を見る遊具(図3)、椅子にもトンネルにもなる遊具(図4)、ステップの上を歩くと、ある絵と関連する音が聞こえる遊具もあります。「美術館にはたいていの場合『順路』がありますが、子どもには子どもなりの『とおしみち』のようなものがあります。もし、そんなものが美術館のなかであれば、展示室を巡ることが『あそび』になると考えました」と語るplaplax。《絵を見るための遊具》に導

### 企画協力 森口佑介 (京都大学准教授/発達心理学、認知科学)



専門は発達心理学・発達認知神経科学。子どもを対象に、認知、社会性、脳の発達を研究する。また、保護者や子どもにかかわる仕事をしている人への講演等を通じて、子どもの発達に関する知見を広く発信している。

大人にとっては仕事が生活の中心ですが、子どもにとって生活の中心はあそびです。心理学では、子どもはあそびを楽しむことで毎日を元気に過ごすことができ、大人になる準備をしていると考えられています。また、子どもは、どんなつまらないことも、あそびにして楽しむことができます。いわさきちひろの絵は、このような子どものあそびの本質をしっかりとらえています。なにより、子どもの視点からあそびを描いているところがちひろのすばらしさです。本企画では、このようなちひろの絵を、みなさまにあそびながら見ていただきたいと思っています。



(図1)「まきぼの うし」 1969年



(図2) plaplax 絵を見るための遊具 2024年



(図3) plaplax 絵を見るための遊具 2024年



(図4) plaplax 絵を見るための遊具 2024年

かれ、あそぶうちに自然と絵を見ることができ、のぞき穴やレンズを通すことで普段は気が付かない部分にも目がゆきます。大人も子どももちひろの絵の魅力を再発見できる仕掛けが詰まった遊具です。50cm四方のモジュールを組み合わせたこの遊具は、安曇野館で展示され、子どもたちも展示室で大はしゃぎ！ 大人気となったこちらは、形を変えて東京館でも展示予定です。

#### 《まどのらくがき》

plaplax が絵本『あめのひのおるすばん』に着想を得て制作したインタラクティブな作品《まどのらくがき》(図5)も展示します。絵本の主人公の少女は、雨の日にお母さんを待って、ひとりで留守番をしています。ピアノで遊んだり、窓の外を眺めたりしながら過ごしますが、急に電話が鳴ったり、暮れていく街

並みを見ていると不安は増すばかり。たまたま、少女は「わたしの おねがいが」を曇った窓ガラスに指で描きます(図6)。



(図6) 窓ガラスに絵をかく少女『あめのひのおるすばん』(至光社)より1968年

ちひろには、幼い日に東京から信州へ電車で向かう際、自席の曇った窓ガラスに絵を描いていると他の席からも声がかかり、一車両の窓いっぱい絵を描いて回ったというエピソードが残っています。この少女にはちひろの幼少期の体験が投影されているのかもしれませんが。

展示室には雨音が響き、窓枠をイメージしたスクリーンには、曇った窓ガラス越しに見たようなこの場面が映し出されます。スクリーンに触れると、きゅきゅっという音がして……？

2018年に「いわさきちひろ生誕100年『Life展』あそぶ」でplaplaxが制作した《絵の具の足あと》(図7)も再展示します。ちひろの世界を見て、さわって、身体を動かしながら楽しむことができます。(高津つぐみ)



(図5) plaplax まどのらくがき 2024年



(図7) plaplax 絵の具の足あと 2018年

## 「いわさきちひろ ぼつご50年 こどものみなさまへ あれこれ いのち」関連イベント 2024年4月21日（日）お話と対話の集い「絵でつなぐ自然の共生」

展覧会「あれこれ いのち」にあわせ、企画協力者である鷺谷いづみ氏のコーディネートにより、ちひろ美術館・東京の図書室とオンラインで、分野を超えたトークが実現しました。要約して報告します。（松方路子）



**基調講演（鷺谷いづみ・東京大学名誉教授）**  
ヒトという動物にとって絵とは

ホモ・サピエンスの、ほかの動物と異なる特性は、道具でもことばでもなく、絵で情報を伝達することです。世界最古の具象画は約4万5千年前のインドネシアの洞窟の、イボイノシシの絵。また、1万年近く前のアルジェリアのタッシリ・ナジュール岩絵からは、当時の環境がわかります。時代を超えて、絵によって人の気持ちや環境へのまなざしが伝わります。

### みんなつながり生きている

生態系とは関係のネットワークのこと。人もその一員です。共生関係が生物多様性には重要で、そのために植物の花や果実は色で動物にアピール。重要な色素がふたつあります。黄色（カロテノイド）と紫色（アントシアニン）。そのため、紫色に私たちは惹かれます。ちひろの絵のなかにも、紫色が多く使われています。

### 失われつつある野

ちひろの《秋の花と子どもたち》には、万葉の時代から日本人が親しんできた植物が描かれています。これらは野に咲く花ですが、なかには絶滅危惧種や準絶滅危惧種も含まれています。野は多様な植物資源を採集したり、牛馬を育てる牧として、人の暮らしに大切な場でした。そこで火入れをして、樹木の侵入を防いでいました。ちひろが絵を描いた『あかまんまとうげ』（文・岩崎京子）にも、自然との共生について書かれています。1950年代以降、拡大造林という国策、氾濫原、外来牧草の輸入で牧が無くなり、野が急速に失われました。絶滅危惧植物の3～4割は野の植物と思われま。野の保全と再生は、自然との共生のために重要な課題です。

### 武蔵野について

続古今和歌集の歌にも登場する武蔵野。国木田独歩の「武蔵野」というと雑木林のイメージがありますが、『今の武蔵野』で、「林と野とがかくもよく入り乱れて、生活と自然とがこのやうに密接している処がどこにあるか。」と記され

ています。また、絵画を見ると、武蔵野に暮らす隠者との出会いの場面がある「西行物語」を江戸時代初期に描いた俵屋宗達の絵には水辺が見られます。武蔵野の丘陵地につながる低地は、もとは氾濫原です。そこには多様な生態系があります。採草地、雑木林、水田やため池などは人の暮らしに大切でしたが、都市化、農業の近代化で、農業・肥料の利用、コンクリートで水辺を固められ、ほとんど失われました。少しの面積でも、わずかにでも再生することは課題です。

ちひろの「謎のスケッチ」（図1）は興



いわさきちひろ「謎のスケッチ」1951年

味深く、かつては身近だった水辺の生き物も描かれています。ゲンゴロウも。

### ゲンゴロウの現在（西原昇吾・中央大学保全生態学研究室）

ゲンゴロウは、かつての普通種であり、長野県では食用にも使われていました。この辺りでは井の頭公園などにもいましたが、今はいなくなりました。水辺の開発や農業使用、アメリカザリガニなどの侵略的外来種の侵入が複合的に影響を及ぼした結果、かつては普通に生きていたものが、国内希少野生動物植物種になってしまっている、という危機的状況なのです。

### WWF ジャパンが取り組む 水辺の生物多様性保全（久保優・WWF ジャパン）

2022年のWWF「生きている地球レポート」によると、地球上の生き物で、その豊かさを表す数値が一番減っているのが淡水域の生物です。1970年に比べ、8割以上の減少です。日本では、ドジョウやメダカの一部も、絶滅危惧種になっています。自然の氾濫原が「整備」され、水田がコンクリート化されてしまっています。その背景には、管理しやすい水路への改修、気候変動等があります。農業と生物多様性の両立のために、WWFは環境に配慮した工法や作物の提案などを行っています。

### ウナギについて（オンライン・海部健三・中央大学法学部教授）

淡水魚より強いと思われていた回遊魚のひとつであるウナギも、危機に瀕しています。回遊魚を守ると、その水域全体を守ることにもなります。また、現在世界で一番消費されているのは、アメリカ

ウナギですが、その稚魚の輸出元では、乱獲や密漁・密輸などが起こっています。私たち人間の行動が遠い所の生態系にも影響を与えていることを忘れていただきたいと思います。

対話の場として、会場やオンライン参加者の質問に、登壇者が答えました。

### ○生物多様性について、子どもにはどのように伝えればよいのでしょうか

鷺谷：ちひろさんの絵を見るのがよいかもしれませんね。まずは知る。最近は園芸種や外来種しか見られなくなっています。そこで、絵で伝える人が増えてくるといいな、と思います。子どもと絵を描くのもよいかもしれません。（展示室4で見た水辺の生き物を子どもたちが描いたものを見ましたが、そういう取り組みは東京でも意味があるのではないのでしょうか。まず、絵を描きましょう。

### ○生活と自然の結びつきを取り戻すために、近代化・放置された場所を再生し、活用することは可能でしょうか



鷺谷：可能だと思います。たとえば植物で、多様なものを育てる。過去や海外の取り組みにも学び、なにをしたいか、どう利用したいかと考え、地域の人とつながり、栽培植物だけでなく野性の植物にも広く目を向けていけるとよいですね。久保：できないことはないと思います。私たちWWFでは、生態系によりよい方向を行政に働きかけて、提示し、活動しています。いろいろな方法があります。

### WWF（世界自然保護基金）の紹介（城野千里・WWF ジャパン）

WWFは1961年にスイスで設立され、地球の自然環境の悪化を食い止め、人類と自然が調和して生きられる未来を築くことをミッションに活動しています。自然は現在危機的な状況にあり、1970年以降、69%も生物多様性が減っていますが、希望もあります。WWFでは、2030年までに生物多様性の減少の傾向を食い止め回復の動きに転じさせることを目指しています。90人ほどの小さい組織ですが、世界で40ほどのプロジェクトに取り組んでいますので、まずは知って、参加してください。

## ひとこと ふたこと みこと



### 3月3日(日) ☀

母が大好きで、家にいくつもちひろさんの絵が描かれたグッズがありました。展示室で絵を見ていると、母が好きだった理由がよく解った気がしました。

### 3月10日(日) ☀

第1展示室の「あちこちスケッチ」がおもしろかったです。いわ崎さんの好きな色(ムラサキ)でかかれた絵がとてもすてきで印しように残りました。大きくなったらまた来たいです。 小4 ゆき

### 3月30日(土) ☁

高校時代の友人3人でやって来ました。40年ぶりです。建物の周りの景色がまったく変わっていて、3人ともびっくりしています。幼いころの絵本の思い出、また高校、短大時代に時の流れを感じな

がら、懐かしい気持ちでいっぱいになりました。またいつか、おばあちゃんになっても来たいです。

### 4月4日(木) ☁

おばあちゃんがちひろさんの絵が大好きで、美術館に行ってみたくて、静岡の川根から来ました。母と娘の私もいっしょに初めての東京観光です。とても落ち着くし、いやされるし、絵もやさしい気持ちになります。素敵な場所です。 紋花 陽子 喜子

### 4月13日(土) ☀

1976年16歳の時に展覧会で見て以来のファンです。2024年3度目の訪問。今回の展示テーマで、ちひろさんが野の自然を大切に思われていたこと、それが失われてゆくことを悲しんでおられたことを改めて知り、とても感銘を受け、共

感しました。現代の豊かで便利だけれどさんだ社会をみたら、どう思われるでしょうか。

### 4月19日(金) ☁

明日は夫の一周忌です。結婚前、彼はこんな話をしました。「さだまさしの『歳時記』という名曲のなかに、ちひろの絵のような笑顔の君が好きだったという歌詞があるんだけど、ちひろの絵の少女って目が笑ってないよね」「そうかな、笑っているものもあったと思うな」と、私は出身高校の近くにちひろ美術館があるから、笑った絵をさがしてみる?と誘いました。彼はやはりちひろの笑顔の絵はみつからなかったけど、私が「素敵な水色に君は笑った」イメージのちひろの笑顔をしていたそうです。2006年の話です。

## 美術館 日記



### 2月3日(土) ☀

東京ソラマチに、ちひろの複製画展示やグッズ販売を行うポップアップストア「いわさきちひろ POPUP PATIO」がオープン。美術館の冬期休館中に、ちひろの世界を伝えられる場所ができたことをよろこびながら、美術館スタッフも設営に立ち会った。今年、全国各地での展開を予定している。

### 2月24日(土) ☀のち☁

展示替え3日目に、展示協力を務める鷺谷いづみ氏が来館。自身のガーデンから、段ボールいっぱいを持って来られたふきのとう、ふきの若葉、わらびの根、サクラソウとスマリの種を、美術館中庭の片隅に植えた。この一角は、在来の植物を育む「共生の庭」として、人と自然の共生を思い出し、取り戻していくきっかけづくりのた

め、展示の一環として育てていく。



### 2月28日(水) ☀

展示替えが終わり、でき上がったばかりの展示室に子どもたちを招待し「あれ これ いのち」展のPR撮影を行った。plaplaによる「あちこちスケッチ」は、スクリーンに指で線を引くと、鳴き声



や物音とともに、ちひろが描いた生き物が現れるという作品。毎回異なる生き物が飛び出すように、子どもたちは大興奮。かがやくような笑顔が撮影できた。

### 3月30日(土) ☀

「こんなにいい写真が撮れた!」とお客様からお声がけが。plaplaによる、見て・触れて楽しめるインタラクティブな作品を取り入れた今会期は、展示室のなかでも撮影可能なスペースを設けている。「子どもに混ぜてたくさん遊んでしまったよ」照れたような声に心があたたまった。

### 4月6日(土) ☁のち☁

「共生の庭」にふきの若葉が生い茂るように。絵本『あかまんまとうげ』(童心社)の一場面のように、一面の新緑にぼつりとうかがサクラソウの紫が美しい。

## 風

Vol.9

旬なできごとをピックアップしてお届けします

2021年に改正された障害者差別解消法により、今年4月から、全事業者に「合理的配慮の提供」が、義務化されました。合理的配慮とは、心や体のはたらきに障害がある人(障害者)が、その障害自体や社会のなかにあるバリア(障害)によって活動が制限されている場合に、その社会のバリアを取り除いてほしいとの声があれば、各事業者の事業の範囲内で配慮をする、というものです。

ちひろ美術館は、東京、安曇野館ともにバリアフリーの建物ですが、設備のバリアを解消しただけでは、すべての来館者が作品を鑑賞したりイベントに参加したりできる訳ではありません。障害のある方が、障害のない方とできるだ

け同じように過ごしていただけるよう、ご本人側と美術館側とで丁寧話し合い、その人によって異なるバリアを理解し、解決方法を探っていくことが大切です。

2023年度、東京館では、地域活性化事業において、障害のある方、日本語を母語としない方など、多様な社会的バリアに活動を阻まれている方が文化や芸術の場を利用しやすくするための取り組みを進め\*、その経験は実践につながってきています。

受付用に用意した筆談ボードは、受付でのご案内だけでなく教育普及活動でも活用され、水彩技法体験に聾(ろうあ)者の親子が参加された際には、口頭で説明をする職員の横で別の職員が\*筆

談し、お子さんには保護者が手話で伝えることで、他の親子とともに同じプログラムを体験していただくことができました。また、得られた気づきは危機管理にも生かし、エレベータ使用不可の状況で車椅子利用者が2階にいたら、トイレの個室に耳の聞こえない方がいたら、などさまざまな来館者の状況を想定して避難訓練を行うようにしています。

誰もが、いつでも、気軽に来館し、作品の鑑賞やイベント等への参加を楽しんでいただけるよう、ちひろ美術館は、これからもお客様との対話を重ね、アクセシビリティ(利用しやすさ)を向上させていきたいと考えています。

(武石香)

●次回展示予定 2024年10月12日(土)～2025年1月31日(金)

いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ みんな なかまよ



いわさきちひろ ゆびきりをする子ども 1966年

「みんな仲間よ」私は自分の心にいいきかせて、なつかしい、やさしい、人の心のふる里をさがします。絵本の中にそれがちゃんとしまっているのです」  
 いわさきちひろは、絵本づくりに重ねてこんなことばを残しています。彼女の絵本には平和をつくるためのひみつが隠されているのかもしれませんが。ちひろの絵やことばを通して、ひとりひとりが平和を見つめれば、たくさんの考えが浮かびあがってくるでしょう。  
 本展では、ちひろの絵を起点として、子どもから大人まであらゆる人が、ひとりひとりの個性を尊重し、ともに平和を築いていくための手がかりを探します。

ちひろ美術館・東京イベント予定 各イベントのご予約・お問い合わせは、ちひろ美術館・東京イベント担当へ。  
 掲載内容は予告なく変更する場合があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。TEL.03-3995-0612 chihiro.jp



〈展覧会関連イベント〉

●森口佑介講演会 「ちひろの絵からみる子どもの発達」



「あ・そ・ぼ」展の企画協力者である、森口氏が、ちひろの絵をもとに子どもの特性や発達などについて語ります。  
 ○日時：9月28日(土) 14:00～15:30  
 ○講師：森口佑介(京都大学准教授・発達心理学、認知科学)  
 ○参加費：800円(入館料別)

○会場と定員：ちひろ美術館・東京 図書室/20名、オンライン80名  
 ○申し込み：要事前予約(8月28日より公式サイト、Tel.にて)

●ちひろ忌・アトリエトーク

いわさきちひろの50年目の命日に、ちひろの復元アトリエにて、制作の舞台裏や愛用の品などちひろにゆかりあるお話をします。  
 ○日時：8月8日(木) 11:00～14:00～  
 ○参加費：無料(入館料別)  
 ○定員：各回15名 ○申し込み：不要



●子どものための鑑賞会

○日時：8月18日(日)10:30～12:00  
 ○講師：富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会 代表理事)  
 ○対象：3～6歳の子どもとその保護者8組  
 ○申し込み：要事前予約



〈会期中のイベント〉

●わらべうたあそび

○日時：7月6日(土) 11:00～11:40  
 ○講師：服部雅子(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)  
 ○参加費：無料(入館料別)  
 ○定員：8組16名 ○対象：0～2歳児と保護者  
 ○申し込み：要事前予約(6月6日より公式サイト、Tel.にて)

●あかちゃんのための鑑賞会

○日時：7月28日(日) 10:30～12:00  
 ○講師：富田めぐみ(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会 代表理事)  
 ○対象：0～2歳の乳幼児と保護者8組  
 ○申し込み：要事前予約

●松本猛ギャラリートーク

ちひろのひとり息子である松本猛(ちひろ美術館・常任顧問)が、展覧会の見どころや、母・ちひろの思い出を話します。  
 ○日時：8月4日(日) 14:00～14:30  
 ○参加費：無料(入館料別) ○申し込み：不要(参加自由)

●開館記念日 たてものツアー

館内をめぐるながら、ちひろ美術館・東京(設計：内藤廣)の魅力をお話します。  
 ○日時：9月10日(火) 11:00～14:00～  
 ○参加費：無料(入館料別) ○定員：各回15名 ○申し込み：不要

●敬老の日 9月16日(月)

65歳以上の方は無料でご入館いただけます。(受付にてお申し出ください。)

●出張「子育てのひろば」

展覧会を見る前後に、「こどものへや」によって、遊んだり、保育の専門家とおしゃべりしたりしませんか。  
 ○日時：9月18日(水) 10:00～15:00 ○参加費：無料(入館料別)  
 ○申し込み：不要(参加自由) ○協力：NPO 手をつなご

●ギャラリートーク

○日時：毎月第1・3土曜日 14:00～14:30  
 ○参加費：無料(入館料別) 申し込み：不要

●絵本のじかん

○日時：毎月第2・4土曜日 11:00～11:30  
 ○参加費：無料(入館料別) 申し込み：不要  
 ○協力：NCBN(ねりま子どもと本ネットワーク)

CONTENTS 〈展示紹介〉いわさきちひろ ぼつご50ねん こどものみなさまへ あ・そ・ぼ …②③/ 〈活動報告〉お話と対話の集い「絵でつなぐ自然と共生」…④/ひとことふたことみこと/美術館日記/風…⑤

美術館だより No.221 発行2024年5月27日